

18. こども食堂につっこ

記録：小瀧一誠

場 所：黒田宅（名古屋市天白区元八事 5-43 黒田宅）
対 象：こども～高齢の方
参加費：子ども 無料、大人 300 円
代 表：黒田昭子さん
初 回：2016 年 4 月 4 日（土） 毎月第 3 土曜日

参加日時：12 月 21 日（土） 11：30～13：30
参加人数：こども、大人両方合わせて 30 人くらい
献 立：ピカタ、切り干し大根煮、豚汁、つけもの、鬼まんじゅう
参加者：井上実、小瀧一誠

こどもだけでも、おとなだけでも、赤ちゃんと一緒の家族も参加できます。みんなで一緒に楽しくご飯を食べましょう！ぜひ、おともだちを誘ってきてくださいね。
※アレルギーの対応はしておりませんので、ご注意を

◎きっかけ

黒田さんはピアノ教室をやっている、その場所でこども食堂を開いている。自分自身が子供の時に貧困だったので、子どもの貧困や少年犯罪など気になっていた。ピアノ教室を開いているので色んな子がいることは知っていた。格差を感じる。何かできないかと思っていた。最近子どもの貧困がニュースで取り上げられるようになってきた。豊島子ども WAKUWAKU ネットワークで知るよりも前に、5、6 年前に TV で学習支援のニュースを見た。ピアノ教室で勉強を見てあげていたし、子どもとの触れ合いには慣れている。本当は学習支援がしたかった。今でもしたいと思っているが、学習支援をするには学生たちに手伝ってもらわなければならない。ボランティアで集めるのは人脈もないし無理だと判断した。食事を十分にとれない子がいると知り、学習よりもご飯を食べることがもっと大事だと思いこども食堂を始めた。黒田さんはサークルセンターというところで働いていて、そこが 2016 年の 3 月で閉鎖することになった。そこで使っていた食器類や調理道具などをもらえることになった。黒田さんは猫を飼っており、衛生の面でこども食堂を開くのは無理だと思っていたが、2016 年にその猫が亡くなった。学童保育が小学生で終わり、中学生からはそういう施設がない。そこでピアノ教室の場所で中学生向けの学童保育を作る。その子たちが高校生になると中学生向けの学童保育はいらなくなり、今度は大人の会を作る。そこでは、会議やごはん会、忘年会、旅行などを行う。大人の会からテニスサークルもできた。そういうときの会議は全て黒田さんのお宅でやっていた。黒田さんのお宅はもともと人が集まる場所。人が集まった時の対応がとれるからここでこども食堂を開けると思った。様々な理由が重なり、2 月末に友人（学童保育 OB 5 人）にこども食堂をやりたいに伝えると、すぐに日程が決まった。（日にちを決めないと助成金が下りない）学童保育 OB 5 人が運営の軸となっている。

◎食堂を開くにあたって

WAKUWAKU ネットワークの動画「子ども食堂の作り方講座」を参考にした。4月に天白こども食堂に見学に行った。今後、何かあれば相談や食材を分け合ったりできるかなと思っている。天白こども食堂からも5月に見学に来てくれた。地元の学校の行事を把握して、一番予定がない第3土曜日に開催することにした。休み期間は平日にもう一回やっている。夜開催したくて最初は夜やっていた。親たちが、早く帰れずお金だけ置いていったり、朝から作り置きしていくのが心配だった。でも、暗いのに1人で来させるのは危ないし、送り迎えする人手もない。だから昼開催にした。黒田さんの家の付近は子どもがそんなにいない地域で、子ども会がどんどん潰れている。

◎ボランティア

軸になっている人がそれぞれ友人をボランティアとして連れてきてくれる。

◎宣伝

新婦人の会というのに加盟している。この辺はにんじん会という。月一回冊子みたいなものが配られ、その中にチラシを入れてもらっている。新婦人の会には、勉強会、体操、ヨガなど色んな会がある。町内会長に回覧板で配ってもらっている。現在OBの5人中2人の夫が町内会長をやっている。学童保育やクリーニング屋さん（みんな見てくれる）、子どもが集まる場所にチラシを置いている。ピアノ教室の生徒さんの親にチラシを作ってもらっている。1,000円以下でできる。毎回200枚くらい作ってもらっている。

◎食材

知らない人からの電話で食材が集まる。タイミングが合えば子ども食堂で使い、合わなければみんなで分ける。月1回会議をしている。調理器具もみんなで持ち寄っているため、モノに困ったことはない。社協の助成金で少し機材を買った。チラシには20食限定と書いてあるが、来てくれる子の分は賄えるように30食くらいは作っている。お好み焼き、ちらしずしなど子ども達とやれることはやる。衛生管理責任者について、月に4回以上開催すると保健所に申請が必要だが、月3回までは「近所の人が集まってご飯を食べている」という位置づけで良いらしい。当初、保険に加入することも考えたが、食中毒の保険で必要性を感じなかったのでやめた。

◎資金

初回だけ1人1,000円ずつ出し合い食材を購入した。それ以降は大人料金だけで十分足りている。毎回1,000円ずつくらい余る。社協の助成金をもらった。

◎課題、悩み

場所が広いといい。建物が古く、市の耐震基準に合っていない。皆が居るときに地震が来たら…と心配している。でも、勝手がわかっている所以他の場所ではやりたくない。人が増えすぎると断らなければならないので困る。本当に困っている人に届くか分からないが、やっていくうちにどこかで来てくれるかもしれないため細々と続けていく。この辺

の地域は子どもと大人の信頼関係ができているため、色々な人と出会える場所だと思ってくれば、人脈が大切。私たちの年代を利用してくればいい。何かやりたい人は沢山いるから何が必要なか情報をくれたら。子どものために何かしたいと思っている人がたくさんいる。貧困の子に個人的な支援ではなく、みんなで何かできる機会を作ってあげられたら。同じ学区でもここまで来るのに時間がかかる子がいる。学区に4つくらい子ども食堂ができたらいいな。

◎感想

個人宅なので場所は広くないが、その分温かい雰囲気があり、子ども達のにぎやかな声も聞こえて近所のお家に遊びに来ているような感覚になった。色々な学年の子がいてグループみたいなものもあったが、そのグループに他の子が入ってきても仲間外れにすることはなく、仲良く遊んでいてえらいなと思った。途中、怪我をしてしまうトラブルがあったが、同じ方面に住んでいる方が家まで送っていき親に状況を説明してくれたため迅速に解決できた。役割をしっかりと決めているわけではないが、一人一人が自分の役割を把握して動いているらしく、運営側の信頼関係と長年の人間関係みたいなものが生きてきているのかなと感じた。

◎写真

